

# (社)全日本鍼灸学会

## 平成 23 年度 第 3 回理事会 議事録

### I. 開催の日時及び場所

日 時：平成 23 年 10 月 30 日(日) 午後 3 時 00 分～午後 5 時 30 分  
場 所：東京衛生学園専門学校 405 教室（東京都大田区大森北 4-1-1）

### II. 議事の経過要領および結果

司 会：事務局長 福村 昭  
挨 拶：会長 後藤 修司  
議 長：会長 後藤 修司

#### 【報告事項】

- 各部事業中間報告（平成 23 年 8 月～平成 23 年 10 月）
  - 事務局 福村事務局長  
資料に基づき説明があった。
  - 学術部 篠原学術部長  
資料に基づき説明があった。
  - 研究部 古屋研究副部長  
資料に基づき説明があった。小川副会長より、普及啓発の観点から、来年開催予定の第 3 回国際シンポジウムについて医療推進の HP に掲載したいので、決定事項を逐次医療推進に流して欲しいとの要望があった。
  - 編集部 坂口編集部長  
資料に基づき説明があり、9 月 26 日に J AM が医中誌への登録が認められたとの報告があった。
  - 組織部 安藤組織部長  
資料に基づき説明があった。
  - 国際部 高澤国際部長  
資料に基づき説明があった。
  - 広報部 金井広報部長  
資料に基づき説明があった。
- 平成 23 年度中間決算報告 小川副会長  
資料に基づき説明があった。また、野口監事からは 10 月 23 日（日）に学会監事が監査を行った結果、収支決算書通り適切に処理されていることを確認したとの報告があった。
- JLOM 関連委員会報告 東郷 JLOM 関連委員会委員長  
資料に基づき説明があった。
- 認定委員会報告 福村認定委員会事務局長  
資料に基づき説明があった。
- 第 60 回学術大会報告 妹尾実行委員長  
資料に基づき説明があった。また、10 月 23 日（日）大和田大会監事、野口大会監事及び宮本学会監事により監査が終了した旨の報告があった
- 第 61 回学術大会準備報告 津田中部支部長  
資料に基づき説明があった。また、患者参加型のプログラムを実施したいとの要望があり、実施の方向で検討することが承認された。
- 第二次日本経穴委員会報告 篠原学術部長  
資料に基づき説明があり、今後の経穴委員会のあり方について意見を募りたい旨要望があった。3 月

までに意見の集約をするため、2月の理事会で審議事項とすることとなった。

## 8. 鍼灸日本委員会立ち上げ

後藤会長

8月20日(土)に関連7団体による鍼灸日本委員会の立ち上げを行い、11月10日(木)には国際問題に関する勉強会を開催する予定であることが報告された。

### 【審議事項】

#### 1. 平成24年度各部事業計画案・予算案の検討

##### 1) 事務局

福村事務局長

資料に基づき説明があった。平成24年度諸会議の日程のうち、当初8月5日に予定していた第2回理事会と第2回支部運営委員会を7月29日に変更し、10月28日に予定していた第3回理事会、第1回常務理事会、第3回支部運営委員会を11月18日に変更する。3月20日に予定していた第5回理事会と第5回支部運営委員会についても変更するが、日本鍼灸師会の行事と重ならないよう小松広報副部長と協議して決定することとなった。諸会議の日程は計画案通り実施することで賛成多数で承認された。その他の事業計画案ならびに予算案についても賛成多数で承認された。

##### 2) 財務部

小川副会長

予算案について各部の要望を聞いた上で、今後予算案の作成を行っていくとの説明があった。

##### 3) 学術部

篠原学術部長

資料に基づき説明があり、事業計画案・予算案について賛成多数で承認された。また、高木賞選考委員会による審査結果の報告があり、審議の結果、賛成多数で承認された。

##### 4) 研究部

古屋研究副部長

資料に基づき説明があり、事業計画案・予算案について賛成多数で承認された。平成23・24年度公募研究について概要の説明があり、科研費など他の助成との重複応募は認めないことと、助成に値する研究レベルの応募があった場合のみ採択し、場合によっては該当なしとすることが確認された。また、採択された研究には中間報告ならびに結果報告を課すこととし、評議員会での発表や報告集の作成など、報告の形式について今後検討を行うこととなった。

また、研究部組織図について、安全性委員会の設置をはじめとする改正案について資料に基づき説明があり、賛成多数で承認された。評議員会で要望のあった倫理審査委員会については、委員会に代わる窓口を設置し、会員からの研究計画書の提出を受けて、倫理審査委員会を設けている連携先(研究・教育機関、病院など)の紹介をするなど、相談にのることを考えているとの説明があった。それに対し、会員以外の学識者に加わっていただいた上で、学会内部に倫理審査委員会を設置してはどうかとの意見が出され、研究部での検討事項となった。

鍼電極低周波治療器の安全に関する規格基準について、鍼電極低周波治療器の安全に関する規格基準の「鍼電極の安全規格」のなかで、「0.20mm未満のものは除く」としていた文章を「鍼体線径φ0.20(mm)以上のものを鍼電極として推奨」とすることが承認された。

##### 5) 編集部

坂口編集部長

資料に基づき説明があり、事業計画案・予算案について賛成多数で承認された。学会誌に関して、2月号からは東京宣言の特集を組む予定をしており、まずは全文を掲載した上で、教育講演、趣旨説明やシンポジウム、特別講演の内容を掲載していきたいとの説明があった。東京宣言については学会誌にあわせてHPにも掲載していく。また、JAMが医中誌への登録が認められたとの報告があり、有料サービスである参考文献へのリンクサービス(年間500米ドル)の利用の有無については、メディカルオンラインへの掲載の件も含めて2月の理事会までに内容をつめて検討することとなった。

また、61巻2号に掲載されたヴォルフガング・ミヒェル先生の原稿翻訳にかかる費用は原著翻訳料予算から支出することとなった。

契約期間終了に伴う印刷業者の選定について審議を行った。3社から見積もりを取った結果、サービス内容に優れている上、金額が一番安かった(株)ライフクリエーションと契約を更新することが賛成多数で承認された。

## 6) 組織部

安藤組織部長

資料に基づき説明があり、事業計画案について賛成多数で承認された。今年度の事業として前回10年前に行われた正会員対象のアンケートを実施して、会員動態調査と学会へのニーズと満足度を探りたいとの希望が出され、予算の計上が賛成多数で承認された。

## 7) 国際部

高澤国際部長

資料に基づき説明があり、事業計画案について賛成多数で承認された。日本鍼灸関連情報の海外への紹介活動の一貫として行なっている各活動については以下の通り対処することが賛成多数で承認された。

- ・NCCAOMにおける日本語での試験実施への協力については、カリキュラムの突合せなどの調査を学校協会へ依頼するなど、関係団体と連携を図るとともに、教育機関における不足単位の研修会開催も検討していく。
- ・海外からの研修生受付システムが稼働中だが、長期研修を希望する場合の受け皿が必要である。学会に問い合わせが来た時に紹介ができるよう、長期研修が可能な教育機関の調査を学校協会に依頼する。
- ・海外での学会時に使用する自立型懸垂幕については、会長の挨拶は作成せず、日本鍼灸をアピールするような写真を多用したデザインにして2枚作成することが賛成多数で承認された。

## 8) 広報部

金井広報部長

資料に基づき説明があり、事業計画案について賛成多数で承認された。金井広報部長退任に伴い来年度よりHPのCMS更新作業は(株)ライフクリエーションに月額3万円で委託することが賛成多数で承認された。また、メールマガジン・FAXマガジンの発行・送信は事務局で行うので、掲載依頼は事務局へ依頼することとなった。

## 9) JLOM関連委員会

東郷JLOM関連委員会委員長

資料に基づき説明があり、事業計画案・予算案について賛成多数で承認された。あわせて経済産業省の助成金を申請しており、それによって今後予算が変更となる可能性があるとの説明があった。

## 2. 平成24年度認定委員会事業計画案と予算案

福村認定委員会事務局長

資料に基づき説明があり、事業計画案について賛成多数で承認された。現在使用しているJCBカードによる認定得点登録用のソフトはかえって登録作業が煩雑になっているとの意見が出され、効率的なソフトの検討を行っていくこととなった。

## 3. 東北3県被災者に対する義援金・見舞金の配分について 小川副会長

2011 鍼灸学術大会 in 東京の参加費442万円から、「災害と鍼灸」への支出分117万円を差し引いた325万円を義援金・見舞金とし、以下のように分配することが賛成多数で承認された。

- ・2011 鍼灸学術大会 in 東京から拠出される義援金・見舞金は全日本鍼灸学会および日本伝統鍼灸学会の会員に分配する
- ・全日本鍼灸学会がHPでお願いして募った義援金154万円は、全日本鍼灸学会の会員に分配する。
- ・対象者は罹災証明のある全壊・半壊・一部損壊を受けた会員であるが、建物が家族名義である場合には、会員本人名義である場合より若干減額する。

## 4. 理事会推薦候補者

理事会の継続性を鑑み、後藤修司、小川卓良、篠原昭二、山下 仁、坂口俊二、古屋英治、東郷俊宏、を推薦候補者とし、妹尾匡躬、宮本俊和を監事候補とすることを決定した。また、各支部より、以下の10名が理事候補者として賛成多数で承認された。

東北	佐々木建彦
関東	斉藤隆夫、鳥谷部創治、山口智
中部	津田昌樹(継続)、清水洋二、
近畿	安藤文紀(継続)、福田文彦(継続)
中国・四国	宇都宮信博(継続)
九州	清水大一郎(継続)

また、人事交流を図る目的から日鍼会より推薦のあった三浦洋先生を理事候補とすることが決定した。

## 5. 選挙管理委員

理事選挙の選挙管理委員として、金井正博（委員長）、武藤永治、野口栄太郎、高澤直美、山田鑑照が賛成多数で承認された。また、評議員選挙の選挙管理委員は正副会長、事務局長とで協議して決定することとなった。

## 6. 入会審査

平成23年7月31日から平成23年10月29日までの間に入会申請のあった者に対して入会審査を行った結果、全員の入会が賛成多数で承認された。

## 7. その他

- ・福田学術副部長より、平成24年2月11日に鍼灸戦略機構が震災と鍼灸に関するプレスリリースを行うとの報告があった。これに伴い、症状の改善がみられた症例等の情報があればお知らせいただきたいとの要望があった。
- ・福田学術副部長より、学術大会時の分科会開催に関して他学会の取り組みを調べたところ、生理学会では委員会を立ち上げて分科会を行っているとのことであった。どのように分科会を開催すべきかについて、もう少し情報を収集する旨、報告があった。
- ・津田中部支部長より、抗凝固剤を服用している患者さんへの施術について、学会ではガイドラインを設けているのかという医師からの質問を受けたとの報告があった。研究部の安全性委員会がガイドライン作成に取り組み、ガイドライン作成後には他学会へも広報していくことが賛成多数で承認された。

以上、すべての議案について審議の結果、賛成多数で承認された。

以上をもって、平成23年度第3回理事会の議事を全て終了した。